

第3章（基準9）

（教育研究環境）

9-1. 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

《9-1の視点》

9-1-① 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

9-1の事実の説明（現状）

【校地】

・経営情報学部、経営情報学研究科の校地面積は30,538㎡であり、そのうち屋外運動場敷地は、8,631㎡である。

・グローバルスタディーズ学部の校地面積は14,376㎡である。

【校舎】

・経営情報学部、経営情報学研究科の校舎総面積は17,053㎡である。校舎の整備状況は、660人収容の大教室棟と20～250人収容の講義室、演習室、図書館、教員研究室、スポーツアリーナ、学食、コンビニ及びサークル棟で構成されている。

また、品川インターシティにサテライトキャンパス（645㎡）を開設し、学部と大学院の講義を多数開講している他、ルネッサンスセンター等の社会人講座も展開している都心キャンパスになっている。

・グローバルスタディーズ学部の校舎総面積は7,171㎡である。校舎の整備状況は、250人収容の大教室1室と10～100人収容の教育棟2棟と教員研究室棟から構成されている。

【運動場・体育施設】

・経営情報学部の屋外運動場は、「スポーツ」の講義や課外サークル活動などに利用している芝生のグラウンドとテニスコート2面を整備している。また、体育施設は球技に適している1,294㎡の屋内スポーツアリーナが整備され、「スポーツ」の講義や課外サークル活動の他、学生に開放して自由にスポーツを楽しむスペースとしている。さらに、780席の観客席も配置しており、学園祭等多目的イベントホールとしても利用している。

・グローバルスタディーズ学部は885㎡の体育館とテニスコート2面を整備している。

【教員研究室】

・経営情報学部、経営情報学研究科の教員研究室は、個室とブース形式の研究室で構成されており、教員同士の交流が図れるよう配慮されている。経営系や情報系など専門分野の異なる教員も積極的に交流しており、授業の改善や研究の推進等に役立っている。教員全員が利用できるパソコンやプリンタなどの情報機器が設置されている「FDコーナー」や教員と学生のコミュニケーションが図れるラウンジも併設している。このように教員研究室は、教員や学生の利便性を考慮して設計されている。

・グローバルスタディーズ学部の教員研究室は、専任教員には個室、AEP（Academic E

nglish Program) の非常勤講師には2～3人で1室、AEP以外の非常勤講師室、計3室の研究室で構成し、「Faculty Corner」を設けて、教員同士が交流・教育目的を達成しやすいように設計、構成されている。また、非常勤講師室には講師が利用できるパソコン・プリンタも設置している。

【メディア&インフォメーション・センター (MIC)】

MICは図書館(ライブラリー・サービス・セクション)及び情報センター機能を有するメディア・サービス・セクションの2つのセクション構成となっている。両セクションともMICの一元管理下のもとで運営し、緊密に連携することにより、ICT基盤整備と情報サービスを協働構築するといったシナジー効果による利用者サービスの向上を実現している。

〔図書館〕

経営情報学部、経営情報学研究科の図書館は竣工当時より、大学棟の中心部の3、4階に位置し、専有延床面積1,021㎡の構造となっている。3階にメインカウンターとレファレンスカウンターを配し、閲覧席(20席)の他、視聴覚資料閲覧席(18席)、ブラウジングコーナー(18席)、レファレンス・コーナー(8席)、パソコン利用席(12席)、リフレッシュラウンジ(10席)また、セミナールームとして(15席)を備えている。3階のフロアーは、利用者との直接サービスを行う機能を集中させ、図書館の利用案内やレポート作成等における資料探索の支援を行っている。4階のフロアーは、書架と閲覧席(66席)を備えておりまた、集中して自習・研究ができるよう個人席(30席)を多く配置している。

グローバルスタディーズ学部の図書館は、大学棟の1階に位置し、専有延床面積406㎡の構造となっている。またメインカウンターの他、閲覧席64席と視聴覚資料閲覧席2席と配置している。

〔情報サービス施設〕

本学では、学内全域に無線LAN基地(経営情報学部、経営情報学研究科75台、グローバルスタディーズ学部29台)を設置し、教員と学生が常時学内ネットワークを通じて学習できる環境を整備している。

経営情報学部、経営情報学研究科では、高度な支援を行うため241教室にデスクトップパソコン(21台)、242教室にはWindowsとLinuxを1台で利用できるシンクライアントのノートパソコン(61台)を設置している。また、グローバルスタディーズ学部でも、W201教室、W202教室共に、Windowsが利用可能なシンクライアントのデスクトップパソコン(計84台)を設置している。

経営情報学部、経営情報学研究科の主要11教室とグローバルスタディーズ学部のE201教室、E301教室に、共通操作のマルチメディア操作卓(CD/DVD/VHS/書画カメラ/情報コンセント/映像音声出力口)を設置し、プレゼンテーション等を簡単に行えるよう整備している。また、マルチメディア教育を実現するために、グローバルスタディーズ学部E棟小教室(8教室)全てに、タッチパネル式のプラズマモニターとノートパソコンを1台設置している。

・両学部、研究科のネットワークの整備状況は、学内(基幹網:1Gbps/sec、支網:100Mbps/sec)及び学外(100Mbps/sec)に高速インターネット回線を整備し、学習者に快適なレスポンスを実現し得る教育研究環境を提供している。

【校舎・運動場等施設設備の維持運営】

校舎・運動場等の施設設備の維持、管理は総務センターが行っている。日常の施設設備管理等は専門業者へ委託しており、空調設備管理、電気設備管理、給排水設備管理、消防設備管理、エレベーターや火災報知機等の点検及び構内清掃管理は、学内に常駐体制をとって行っており、常時総務センターと連携して維持、管理を行っている

学内緑地管理も専門業者へ委託しており、総務センターと連携して維持、管理を行っている。

9-1の自己評価

【校地・校舎】

校地・校舎ともに大学設置基準を満たしており、維持、管理も適切に行われている。

【運動場・体育施設】

グラウンド、テニスコート及び屋内スポーツアリーナは、「スポーツ」の授業や課外サークル活動などに大いに利用されている。

【図書館】

開学当初より、徹底したスペースセービングと利便性の向上に取り組んでおり、積極的に電子ジャーナルといった電子媒体資料を収集し提供している。教育研究活動の支援並びに目的を遂行するためのサービス及び設備を適切に供している。

【情報サービス施設】

各種ICT関連機器・設備については、定期的なメンテナンスを行い、ネットワークの見直しや教育支援サービスの策定、セキュリティ対策向上等を年次計画及び中長期計画で実施している。教育研究活動の支援並びに目的を遂行するためのサービス及び設備を適切に供している。

9-1の改善・向上方策（将来計画）

【校舎・運動場等施設設備】

経営情報学部では、開学後20年が経過し、補修工事が必要になってきており、今後も計画的に整備計画を進めて教育研究環境の充実向上を図る。

開設後3年目のグローバルスタディーズ学部では平成22(2010)年3月に食堂の増設を行い、設備整備計画は一応終了した。今後は短大時代の設備の補修などを計画的に進める。

【図書館】

経営情報学部では、館内案内図やサインなどを見直し、資料を探しやすくするための工夫を行う。また、セミナールームの利用促進を図るため機器類などを見直す。

【情報サービス施設】

経営情報学部、経営情報学研究科では、パソコン教室、ゼミ室等学内設置用デスクトップパソコンの老朽化が進み、修理経費が肥大している為、新規パソコンとの入替えを行う予定である。また、ネットワーク機器等も老朽化が進んでいるため、該当機器のリプレイスを行う予定である。

グローバルスタディーズ学部は情報処理教室における、パソコンの処理能力が低下しているため、環境の改善を図る。

9-2. 施設設備の安全性が確保されていること。

《9-2の視点》

9-2-① 施設設備の安全性（耐震性、バリアフリー等）が確保されているか。

9-2の事実の説明（現状）

本学の校舎は全て新耐震基準を満たしている。日常の施設設備管理等は、業務を委託して学内に常駐している専門業者が空調設備、電気設備、消防設備等の状況を集中管理しており、異常が発生した時も迅速に対応できる体制を取っている。また、身障者トイレや身障者対応エレベータを設置している。さらに、スロープを設置し車椅子での学内移動に不自由なきよう配慮しつつ身障者の安全性を確保している。

9-2の自己評価

校舎は新耐震基準を満たしており、日常の施設設備管理等を学内に常駐している専門業者が集中管理しており、安全管理には十分配慮し、異常が発生した時も迅速に対応できる体制を取っていて、適切な施設設備の安全性が確保されている。また、身障者にも配慮された施設設備に整備されている。

9-2の改善・向上方策（将来計画）

現状では施設設備の安全性は確保されているが、今後も引き続き、適切な管理体制の維持に努める。教育研究環境の向上や身障者の配慮などのために逐次整備しているが、今後も安全性の確保やニーズにこたえて整備計画を実行し、教育研究環境の充実向上を図る。

9-3. アメニティに配慮した教育環境が整備されていること。

《9-3の視点》

9-3-① 教育研究目的を達成するための、アメニティに配慮した教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

9-3の事実の説明（現状）

経営情報学部、経営情報学研究科では、平成21（2009）年3月に学生食堂を全面的にリニューアルし、日中は学生食堂、夕方から夜間20時までは、学生ラウンジとしての機能も備えてオープンし、学生の利便性も高めて、学生満足度の向上を図った。グローバルスタディーズ学部では、在籍学生1、2、3年生だけでおよそ380人だが、平成22年4月には新1年生が入り、食堂が手狭になるため、平成22（2010）年3月に食堂増改築を行った。

経営情報学部では、校舎2階にコンビニを開設して、お昼時には学食を補完し、教科書販売や文房具類販売などキャンパスアメニティを向上させている。また、サークル活動の便宜を図るために空調完備のサークル室8室のサークル棟を整備している。

経営情報学部では、テラス、アリーナ周辺のホール等にテーブルと椅子を100席設置し、食事や休憩の場所として整備している。また、女子学生のニーズにこたえて、トイレを改修してパウダールームを設置している。グローバルスタディーズ学部の食堂増設時にトイレも男女共に増設した。

9-3の自己評価

学生食堂のリニューアルやサークル棟の設置及びコンビニの整備など教育研究活動を充実させるための整備については、学生の意見なども取り入れて学生生活の向上を図っている。

9-3の改善・向上方策（将来計画）

学生へのアンケート結果や意見も考慮し、今後もアメニティ設備の向上に努める。

【基準9の自己評価】

校地・校舎ともに大学設置基準を満たしており、維持、管理も適切に行われており、健全な教育研究環境になっている。

教育研究目的を達成するためのキャンパス整備を年々行って改善されているが、常に快適な教育研究環境を確保するために、教育研究計画や多様なニーズにもこたえながら、施設設備の整備に努める。また、年々老朽化してくる施設設備の維持、管理を適切に行うとともに、空調設備、電気設備及び消防設備などのリニューアル整備を計画的に行う。

図書館並びに情報サービス施設は、本学の建学理念に沿った最新の設備が整備され、ユビキタスネットワークによる情報提供など、小規模大学として誇るべき内容となっており、教育研究に有効活用されている。

【基準9の改善・向上方策（将来計画）】

経営情報学部では、開学後20年が経過し、補修工事が必要になってきており、今後も計画的に整備計画を進めて教育研究環境の充実向上を図る。開設後3年目のグローバルスタディーズ学部では平成22（2010）年3月に食堂の増設を行い、設備整備計画は一応終了した。今後は短大時代の設備の補修などを計画的に進める。現状では施設設備の安全性は確保されているが、今後も引き続き、適切な管理体制の維持に努める。

図書館並びに情報サービス施設は、MICの一元管理の下、相乗効果を発揮する運営体制の構築を推進する。また、情報を扱う機関として、常に最新の情報技術を取り入れ、継続的な教育研究環境の向上を行う。